

かつて「苛酷」と表現された看護師の処遇を、日本の看護協会と看護連盟は役割を分担しながら、その改善に尽力してきた。その実績は、看護関連の法律制定、勤務条件の是正、看護教育の向上など、

協会と連盟が協働

現在では「ほぼ当たり前」になっている事項である。そうした変革への努力と意志をよく知る、福井県看護協会江守直美会長と福井県看護連盟林靖子会長に、それぞれの役割や今後の課題について聞く。

ベリー・ヒューマン



看護職の要望を叶える 両輪として

福井県看護協会は、看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）の有資格者が加入する看護職能団体であり、日本看護協会と連携する47都道府県看護協会の一つ。最たる役割は、一人の力では手負えない問題を組織力で解決し、看護職に資することにある。主要な活動は、看護の質の向上、勤務環境の改善、人材育成と人員確保に取り組むことであり、これら3つの活動に関する要望を、県政や国政に提言する看護政策としてまとめる。

看護の質の向上に関しては、専門教育や研修を実施し、専門看護師・認定看護師・認定看護管理者の資格取得やキャリア継続を支援する。労働環境の改善に関しては、給与や手当の充実、労働時間の規定、有給休暇や産休や育休の拡充を図り、安心して働き続けられる職場づくりを促進する。人材育成や人員確保に関しては、教育機関の増設、ナースセンターでの就業相談などを行っている。また、在

宅医療や訪問看護などに関わる看護職の処遇改善も進めている。

一方、公益社団法人である看護協会は政治活動が制限されているため、看護政策を実現するための政治団体として看護連盟が誕生した。日本看護連盟は各都道府県に看護連盟を置いて、国政や県政等に代表議員を送ることを大きな任務としている。令和5年現在、参議院・衆議院に4名の看護系議員がいる。

政治の場に看護職の代弁者がいると、どんな成果がもたらされるのか。たとえば認定看護師制度。発足当時、資格を得るための研修期間は約半年間、費用は約100万円を要し、研修を受けられる施設も全国に2カ所しかなかった。これでは、スキルアップの意識がよほど高くないと、資格を得ようとはしないだろう。ところが現在、多くの病院は、研修費用を負担し、研修期間中の給与も保障して、看護師に、認定看護師資格を取得するよう奨励する。認定看護師の配置が診療報酬加算や施設基準の要件となったことで、病院の収益につながり、看護職の

福井県看護協会 会長

江守直美



福井県看護連盟 会長

林靖子



勤務環境、看護技術、 社会的評価も進化

「看護師はかつて、きつい、汚い、危険など、3Kや5Kの仕事と言われていました。患者さんの生命に関わるリスクを抱え、緊張とストレスにさらされる辛さもあります。現在は、働く環境も教育体制も格段に良くなったと思います。昔は、いくら国に働きかけても、看護協会の要望はなかなか通りませんでした。看護連盟が国政へ代表を送り出すことで、ようやく国の制度や法律は改定されるようになったのです」と、江守会長。

「確かに、私が病棟看護師だった時代に比べ、いまの看護職の勤務状況を見ると、隔世の感があります。IT技術や高度な検査機器の導入、新しい看護体制の開発など、看護の技術や体制も進歩しました。私としては、褥瘡工コや福

井大学が開発したPNS®（パートナッシュ・ナーシング・システム）に注目しています」と江守会長。「出産や子育てに関しても育児を最低1年間はとれるようになりました。病院によっては3年まで延長できたり、時短や夜勤免除も可能です。院内保育や病児保育のある病院もあります。十分ではないにしても、少しずつよくなっています」と林会長も同調する。

褥瘡工コは、皮膚表面の視診や触診ではわからない深部組織の損傷を検査できる。看護師にとって、褥瘡の適切なケアを可能にする有用な装置だ。

福井大学医学部附属病院看護部が開発したPNS®は、質の高い看護の提供を目的とする新しい看護体制である。経験値の異なる看護師が対等の立場でケアを組み、それぞれの得意を活かして協力し、看護ケアを始め様々な業務を1年間、行うというものだ。

また、コロナ禍は、医療人にとって医療崩壊という崖っぷちに立たされる厳しい試練だったが、得るものもあった、と江守、林両会長は見ている。ワクチンはなく、消



PROFILE

1980年 京都第一赤十字看護専門学校 卒業
1980年 京都第一赤十字病院 入社
1983年 福井医科大学医学部附属病院 入職
看護婦長昇任
1991年 福井大学大学院医学系研究科 (成人看護学領域) 修了
看護部長・副病院長
2019年 福井大学医学部附属病院 定年退職
2019年 公益社団法人福井県看護協会 会長



3年目の頃の江守会長

毒液や防護具も不足した発生当初、感染リスクにさらされながら患者をケアする看護師たちの姿は、社会を勇気づけた。「看護師の専門性とプロ意識を感じ取り、一般の人たちの評価が変わったのでは」と、私たちは考えています」

福井県看護協会の取り組みと課題

福井県看護協会では、看護業務に関する優れた取り組みに対し、「幸せふくいへの挑戦事例」と

して、これを表彰する「アワード」という賞を設けている。対象となるのは、看護業務の改善、タスクシフト・多職種連携、AI・ICTの活用による業務改善、育児短時間勤務者の増加に伴う夜勤者不足の対策、待ち時間の短縮や予約変更など外来診療のシステム導入などである。「人手が足りないから」「当院は規模が小さいから」などの理由で改善への試みを諦めず、各々に見合った取り組みを行うよう、評価や奨励をするのも協会の務めだ。



も、看護師には話してくれる。やりがいと誇りを感じられる職務です」
林会長もまた、病棟看護師時代をこう振り返る。
「看護師の業務は『療養上の世話』と『診療の補助』ですが、最近是在院日数も短くなり、ベッドサイドで患者さんの手を握りながら話すというような時間は少なくなってきたと思います。私が20代のころは在院日数も長かったのですが、患者さんはもちろんご家族とも仲良くなり、今でも年賀状のや

り取りをしている方もいます。何十年もたつて看護部長室を訪ねてきてくださった方もおおいです。患者さんのケアをしながらの会話は楽しかったですね。患者さんの回復はやりがいであり、残念ながら亡くなられた患者さんも思い出になっています。現在は同意書等の書類が非常に多くなってしまし、在院日数が短い分、重症度が高くなっています。いろいろ処遇の改善はされてきましたが、決して楽になったということはないと思います」



PROFILE

1974年 京都第一赤十字看護学院 卒業
1974年 京都第一赤十字病院 就職
1976年 福井循環器病院・心臓センター 就職
1978年 福井赤十字病院 就職
2007年 認定看護管理者取得
2011年 福井赤十字病院看護部長 就任
2013年 福井赤十字病院副院長兼看護部長 就任
2016年 藍野大学 就職
2021年 福井県看護連盟会長 就任



22歳の頃の林会長

また、「アワード」で得た情報をもとに、協会は、各病院の看護管理者たちの交流を図っている。

「大きな病院では比較的、良好な職場づくりが先行しています。たとえば、看護業務のスムーズな申し送り、勤務時間の延長防止、有給休暇や産休育休の充実などで。これら、各病院が優先的に解決したい問題に対し、大病院ではどのような仕組みを設けているのか、中小の病院にアドバイスをしています。病院の規模や体制は異なりますから、大病院の成功事例を中小の病院にそのまま適用するのは無理があります。ですから、その点は意見やアイデアを出し合うことで具体的な改善策をつくり、協会から県政に予算をお願いしています」と江守会長。

一方、林会長はこんな指摘をする。

「令和4年10月に、『看護職等の処遇改善手当』が診療報酬に盛り込まれ、令和5年4月には国家公務員医療職俸給表(三)が見直されました。看護師の職務評価を改正するものであり、大変喜ばしいことです。しかし、このような制

未来を拓くための挑戦と研鑽を

林会長がさらに懸念しているのは医師の働き方改革の一環として医師の業務の一部が看護職にタスクシフト・タスクシェアされた後、看護職の業務をタスクシフトしていく先がないこと。看護職の業務は整理し、必要に応じて他職種や看護補助者にタスクシフトしていく必要があると思うが、現状では看護補助者も少なく課題の一つである。

また、地域包括ケアシステムが進めば、在宅療養や訪問看護を中心的に担うのは看護師。ショートステイやデイケアなどの介護施設でも看護機能が一層必要になり、人材確保はより大きな課題となるだろう。

「自宅で療養する人がどのような生き方をしたいのか、人生をどう全うしたいのか、その人らしい選択ができるようお手伝いをするのも、看護師の務めではないかと私は考えています。身体だけでなく、その人の生き方もケアできる能力を備えた人材を世に送り出し

度改正による恩恵は、看護職のすべての人に与えられるわけではありません。個人病院や診療所、訪問看護ステーションなど、地域で働く人などは、国の施策による利益を得ていないのです」

本来の務めにこそやりがいと誇り

江守会長が病棟看護師のころ、数々の患者との出会いのうち、特に心に残るのは、「最期は自宅で」と願う人たちだ。時には、病院でもう少し診療したいという担当医師を、「家に帰れる時機を逃します」と説得したり、患者が家に帰るの不安だと言う家族を説き伏せたり。「最期は家で迎えたいのに、連れて帰って欲しくない」と嘆く患者のため、その家に向いたこともある。姑との折り合いが芳しくないという人に「お義母さんをお願いします」と頭を下げた。「後日、そのお嫁さんが来られて、こう伝えてくれました。『亡くなる前、お世話になった、ありがとう、と義母から言われました』患者さんは、医師や家族に頼めないことで

ていきたいと思っています」と江守会長は強調する。

そして、江守、林の両会長は若手へこんなメッセージを贈る。

「私が臨床の現場にいたころは不可能だったことが、いまは可能になっています。多くの人々が、諦めることなく、努力と挑戦を続けてきたからです。若い人には、失敗することも『出る杭は打たれる』ことも恐れず、新しいことにトライしてほしい。そういう取り組みが新しい看護の技術や体制作りにつながると思っています」

「私が若い人たちに期待するのは、熱意をもって看護師になったからには、キャリアアップに励んでほしいということ。スペシャリストでもいいし、ジェネラリストでもいい。大学に進学して、医療や看護とは異なる分野でもいいから学んでほしい。どんな知識でもスキルでも、努力して得たことはきつと役立ちます。そういう意識の高い人たちを支援したい」

看護師であることの喜びを知り、誇りを持つ人たちならではの言葉である。